

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	首里きらめき		
○保護者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年1月27日		～ 令和7年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っている	コミュニケーション面で困難さを抱えている児童も多くいるので、コミュニケーション支援には力を入れている。“ことばやコミュニケーションの基礎を育てる”“前言語的なコミュニケーションの促し”“話の内容を視覚的に補い物の概念が広がるよう”に支援している。	これまでの支援方法を継続し、家庭や学校と情報共有しながら、児童ひとりひとりの意思を尊重していきたい。
2	・子どもの活動等のスペースが十分に確保されている ・生活空間が子どもにわかりやすく構造化された環境になっており、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	静養室、指導訓練室、プレイルーム、相談室を設け、必要に応じて空間を活用しています。今年度安全確保のため、壁のウォールクッションや飛び出し防止の策を設置し、安心して過ごしていただける対策を講じました。	障がいの特性に応じて、必要な設備や環境整備を考慮しながら児童がのびのび過ごせる生活空間を作りたい。
3	・事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	療育の5領域を考慮した活動プログラム構成をはじめ、個々の特性に合わせた身体機能訓練(手指、立位、歩行など)も対応させて頂いています。他、ADL向上の為に生活動作訓練にも力を入れています。	今後も児童が充実できる活動プログラムを企画し、楽しく通所し満足度を高められるようにしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・人員配置の数に問題はないが、ご利用児童の比率的に男性職員の必要性を感じる	常勤の男性職員の人数が不足している。身体介護を必要としている児童が多く在籍していることもあり、同性介助を徹底したいが男児の介助を女性職員で対応しなければならないこともある。年齢が高学年になるほどお互いに抵抗感も多少ある。	法人内で人事の在り方を検討し、早期解決を目指していく。
2	・支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	送迎業務の兼ね合いで職員の出勤時間と退勤時間がまばらな為、支援終了後に話し合いを設ける時間がとれない。	申し送り帳を活用しその日のうちに記入する、児童が来所する前の時間(午前中)を利用して職員間で振り返りを行っている。常に職員間で細かな情報共有をしていく。
3	・父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	利用者様の居住地の範囲、年齢の幅または特性の違い、保護者様のニーズを考慮した場合、事業所単位では企画が難しい。	保護者さまひとりひとりと向き合い、支援の在り方や家族支援の方法を検討していきたい。 法人で企画する保護者会や研修会についてはご案内していく。